

(西暦) 2014 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

血液透析患者における転倒予測アセスメントツールの開発と信頼性の検証

学位の種類: 修士 (理学療法学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 理学療法科学域

学修番号 13895602

氏 名: 浅野貞美

(指導教員名: 古川順光)

注: 1 ページあたり 1,000 字程度 (英語の場合 300 ワード程度) で、本様式 1~2 ページ (A4 版) 程度とする。

本研究の目的は、血液透析 (Hemodialysis, 以下 HD) 患者の特性を考慮した転倒アセスメントツールを開発すること、アセスメントツールの信頼性を明らかにすること、HD 患者におけるアセスメントツールの有効性、疾患特性を明らかにすることである。転倒の実態を調査するため、1994 年から 2013 年に発表された国内外の原著論文の中から、「透析患者」・「転倒」、もしくは「hemodialysis」・「fall」のキーワードを組み合わせ検索した結果、総ヒット件数は 991 件であった。それらの中から、転倒に影響を及ぼすリスク因子に関する検討を行っている文献を抽出したところ、合計 10 件の文献が抽出された。10 件の文献の中から、転倒に影響する要因として有意差が認められた因子を調査した結果、18 因子が抽出された。これら 18 因子を転倒予防ガイドラインを参考に分析し、9 分類 14 項目のアセスメントツールの試案を作成した。試案を用いてプレテストを行い、回答所要時間、内容的妥当性、表現の適切性を検討し、9 分類 13 項目のアセスメントツールを作成した。作成したアセスメントツールの信頼性を検証するため、1 ヶ月後及び 6 ヶ月後に κ 係数を算出したところ、1 ヶ月後の κ 係数は 0.6 以下: 0%、0.61~0.8: 36.4%、0.81~1: 63.6%であり、6 ヶ月後の κ 係数は 0.6 以下: 9.1%、0.61~0.8: 9.1%、0.81~1: 81.8%であり、9 割以上の項目で、高い信頼性を得ることが出来た。また作成したアセスメントツールの有効性、疾患特性を明らかにするため、HD 患者 100 名と非 HD 患者 24 名を対象に、HD 中もしくは外来通院時にアセスメントツールを配布し、自記式にて回答、自記不可能な場合は聞き取り調査を行った。初回調査後、6 ヶ月間を観察期間とし、観察期間中の転倒の有無、転倒回数を調査した。HD 患者・非 HD 患者ともに従属変数を観察期間中の転倒回数、独立変数をアセスメントツールの各項目とした重回帰分析を行った結果、非 HD 患者の重相関係数は 0.721、有意確率は 0.522 であった。HD 患者の重相関係数は 0.633、有意確率は <0.0001 であり、転倒既往 ($p<0.01$)、栄養不良 ($p<0.001$) が有意な危険因子であった。HD 群のみ有意差が認められ、疾患特性が明らかになったと考える。また、転倒予測精度を確認するため、抽出された転倒既往、栄養不良の 2 項目について ROC 曲線を作成し、感度・特異度を算出した結果、感度 88.9%、特異度 81.9%、AUC は 0.854 を示し、高い精度で予測可能なツールであることが示唆された。